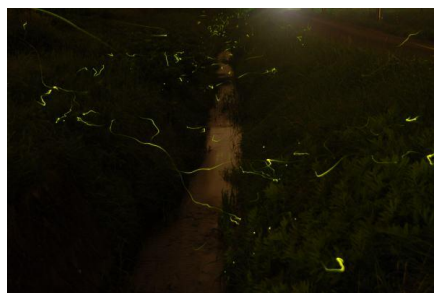


上川名地区計画

平成 24 年度から 28 年度



第 19 区行政区：上川名

平成 24 年 2 月

はじめに

□ 地区計画の背景と目的

少子化や超高齢社会、核家族化など、社会環境は大きく変化しています。価値観が多様化し、物質・経済的な豊かさから、心の豊かさを追い求める人々が増えています。町（行政）と地域（行政区）が対等・協力関係に立ち、地域の自己決定・自己責任により、それぞれの個性や魅力を活かした地域づくりを進めていこうという機運が高まっています。

柴田町では、平成 23 年 4 月に町政運営の指針となる「第 5 次柴田町総合計画」を策定しました。8 年後の町の将来像を「みんなで育てる 笑顔輝く 元気なまち」と定め、「参加と協働」「情報の共有」を基軸に、住民一人一人が持つ創造的な力を都市づくりや地域づくりに活かす「住民自治の実践」によって、柴田町の潜在能力を開花させようとする計画です。

上川名地区計画は、柴田町の理想実現の一翼を担い、一番身近な生活圏である上川名地区のあるべき姿を描くものです。地区の課題を解決し、長所や魅力を伸ばし育み、上川名地区の自主的・自発的・自律的な地域づくり活動の指針として策定します。

□ 計画の位置づけ

地区計画は、法制度や条例により位置づけられた計画ではありませんが、区が主体となって策定し、地域住民の合意形成が図られた計画とします。今後、上川名地区の地域づくりを推進していくための指針とします。

□ 計画の構成と期間

地区計画は、上川名地区の将来像と地域づくりの基本方針、実践計画で構成します。計画期間は平成 24 年度から 5 か年間とし、5 年ごとに見直しを行います。

□ 策定体制

地区計画は、上川名地区計画策定委員会（区役員、各種団体の代表等で構成）が中心となって策定し、区総会で承認を得ます。初回の今回は、上川名地区全戸を対象に平成 20 年 1 月に実施した「営農に関するアンケート調査」、平成 21 年 2 月に実施した「上川名の未来農業や生活していて困っていることなどについての聞き取り調査」を基に、区総会、資源保全隊、活性化推進組合、各種団体の活動等をおして出されている問題点や将来像を取り入れながら、区役員で策定しました。

上川名地区の現況と課題

□ 上川名地区の概要

柴田町の北東部に位置し、地区の北東部は山林で岩沼市境になり、西部には田園地帯が広がります。町内最大の上川名貝塚は、縄文時代の貝塚として日本でも有名です。上川名城跡があり、「仙台藩古城書上」に上川名城主として上川名監物・勘十郎・市兵衛・五郎八郎・五郎太夫の名があるが、これらの人物の時代は特定できないとされています。地名の由来は定かではありませんが、柴田町史には、16世紀初頭につくられたと考えられる「柴田の長帳」に上川名蔵助の名があり、地名ではないが上川名の最も古い記事とあります。地名で年代の明らかなものとしては天文13年(1544年)の「伊達植宗判物」があり、このなかで植宗は上川名など5か所を四保四郎に与えています。

江戸時代まで長い歴史を背負った行政村であり、共同体的な組織体だった上川名が、明治5年4月に「上川名村」となり、自治の第一歩が始まりました。明治23年、入間野、四日市場、上川名、富沢、入間田、葉坂、成田、海老穴、小成田、船迫の10か村が合併して槻木村となりました。その後、槻木村は槻木町となり、昭和31年に槻木町と船岡町が合併して、現在の柴田町が誕生しました。

地区の面積は約1.35平方キロメートルで、西築道下、東築道下、真坂、日向、小倉入、古屋敷、大鹿野下、大鹿野、入、押茂、大館山、館山、寄節、梅沢、江坪、塩塚、上戸、新蔵田、神廻り戸、竹ノ花、清水、四軒屋前、四軒屋道上、大坂、下沢、塩脇、蔵田、江崎の字からなります。

□ 上川名地区の特性

人口173人(男性90人・女性83人：平成23年11月1日現在)で、45戸(50世帯)の地区で、町の行政区(42)でも下から3番目に小さい区です。年少人口(14歳以下)15人：9%、生産年齢人口(15歳から64歳)107人：62%、高齢人口(65歳以上)51人：29%。昔から戸数にあまり変化がなく50戸前後で推移してきましたが、ここ2,3年で5戸減少し空き家が増えています。昭和40年代後半頃までは生活を農業に頼っていた家が大部分でしたが、現在は稲作との第2種兼業農家がほとんどです。専業農家は2戸で、60歳以下の男子で専業的に農業に従事している人はいない現状です。

JR東北本線槻木駅、国道4号線まで約3km、県道亘理村田線まで約2kmの距離にあり、地区近くを走る富沢16号線が地区外へ通じる主要道路になっています。地区内の幹線町道は用排水路に挟まれ幅員が狭いうえカーブが多く、車の相互通行が難しい状況になっています。

江戸の元禄時代から昭和50年代前半まで続いた村の相互扶助と最高意志決定を目的にした講で

ある「契約講」をはじめ、山上講、鹿島講、古峯講、観音講、出羽三山講、念仏講、庚申講など、住民の親睦や融和を深める講が数多くありましたが、現在は2つの講が行われているだけで、他は休止になっています。区は5班に分けられ、納税貯蓄組合、冠婚葬祭、農作業など昔から隣近所を中心に相互扶助が行われてきました。青年、壮年など、本来集落の中で中心的な役割を果たすべき世代が大きく減少した一方で、高齢者が占める割合が高くなりましたが、地縁的結びつきの強い安定的な地域社会を形成しています。

お寺、神社を維持し、貝塚や城跡、各講や孫授けなど歴史・風習に恵まれ、ホタルが乱舞し、水田・里山など自然環境が豊かで、新鮮な野菜や山菜が食べられるなど、多様な地域資源を持っています。

槻木小学校富上分校があったことにより、隣地区である富沢地区との関わりが深く、区民体育祭、敬老会、富上生涯館・富上農村公園運営など、共同で各種事業に取り組んでいます

平成19年度から「農地・水・環境保全向上対策事業」に取り組み、平行して「地区の将来の農業を考える活動」を行っています。地域の自然・食・農・歴史を再生保全し、地域資源を活用して地区外との交流を活発にし、地域の活性化を図ろうと、平成22年7月に上川名地区活性化推進組合が発足するなど、柴田町でも一番と言っていいほど、地区全体で地域づくりに取り組んでいます。

□ 上川名地区の長所と課題

上川名地区全戸を対象に平成20年1月に実施した「営農に関するアンケート調査」、平成21年2月に実施した「上川名の未来農業や生活していて困っていることなどについての聞き取り調査」や、区総会、資源保全隊、活性化推進組合、各種団体の活動等をとおして出されている上川名地区の長所や課題は次のとおりです。

◇長 所

- ① 水田、里山など自然環境に恵まれている。
- ② 歴史、風習・習慣など暮らしの文化が色濃く残っている。
- ③ 少ない戸数でお寺、神社を維持している。
- ④ 昔よりは希薄になってきたが、助け合って分かち合う、思いやりがある。
- ⑤ 班（5）毎の結びつきが強く相互扶助が行われている。
- ⑦ 地域を活性化しようとする気運が高まっている。
- ⑧ 自給自足が可能で、新鮮な野菜・山菜が食べられる。

◇課 題

- ① 少子高齢化が進み、住民が年々減っている。
- ② 後継者がいない家が増え（高齢世帯）ている。
- ③ 空き家が増え、今後も増えるのは確実。
- ④ 荒れた農地や山林が多くなった。
- ⑤ 一人で役員をいくつも引受、負担が大きくなっている。
- ⑦ 買物、通学、通院の不便（車がない人は大変）
- ⑧ 結いの希薄化、祭事の減少、寄り合いの減少、負担の増加
- ⑨ 江払いなどの共同作業に参加する人が高齢化で大変
- ⑩ 道路が狭く車での通行が大変
- ⑪ 後継者で適齢期が過ぎても未婚者が多い。
- ⑫ 戸数が減り続けるとお寺や神社の維持が大変になるのでは…。
- ⑬ 水田農業の担い手がいなくなる。
- ⑭ 大雨が降ると沢や河川の氾濫が心配。

上川名地区の将来像と 地域づくりの基本方針、実践計画

□ 上川名地区の将来像

上川名地区の特性を踏まえ、目指す地区の姿を次のように掲げます。

仲良く、楽しく、安全・安心に生活できる地区

---地区外の人たちが訪れてみたいと思う地区---

---地区民が誇れる（自慢できる）地区---

□ 地域づくりの基本方針と実践計画

上川名の将来像「仲良く、楽しく、安全・安心に生活できる地区」を実現するために、4つの基本方針を柱に実践計画を定めました。「地域でできることは、地域で行う」「地域でできないことは、行政等と協働で行う」ことを理念に、集う・楽しむ・憩う・学ぶ・遊ぶ…地域づくりを進めます。

I 安心・安全な地域づくり

地震・風水害等による被害を最小限にするために「自らの身の安全を自ら守る」ことを基本としつつ、地域みんなで支えあう災害に強い地区を目指します。

- ① 防災訓練の実施（継続）…自主防災組織（行政と連携）
- ② 防災マップの作成（新規）…自主防災組織（行政と連携）
- ③ 災害時の要援護者の支援体制の構築（新規）…自主防災組織・民生委員（行政と連携）
- ④ 火災予防（冬期間の消防ポンプ車の巡回、啓蒙等）（継続）…消防団・婦人防火クラブ
- ⑤ 地域安全活動（交通事故・犯罪等）の推進（継続）…区・交通安全協会役員（行政等と連携）
- ⑥ あいさつ・声かけの実践（継続）…区
- ⑦ ゴミ有料化に伴うゴミの減量化（新規）…区・環境美化推進委員（行政と連携）
- ⑧ 上川名44号線、入間田36号線の拡幅整備要請（新規）…区（行政と連携）
- ⑨ 構造改善センターの屋根修繕とトイレ洋式化と浄化槽化の要請（新規）…区（行政と連携）

- ⑩ 排水路（河川）の浚渫要請（新規）…区（行政と連携）
- ⑪ 入地区の排水路改修要請（新規）…区（行政と連携）
- ⑫ 構造改善センター入口橋の拡幅要請（新規）…区（行政と連携）
- ⑬ 上川名4号線（区内）への待避所設置要請（新規）…区（行政と連携）
- ⑭ 消防団協力隊の設立（新規）…区・消防団

II 自然・歴史・文化の保全と活用

自然・歴史・文化を保全し子孫に継承するとともに、地域資源を活用して「交流」ある地域づくりを進めます。

- ① 能化寺、鹿島・水分神社の行事開催と維持管理（継続）…区・護寺会・神社役員・若名会
・盆供養、どんと祭、元旦祭、神輿渡御（例大祭）
- ② 郷土史の研究（継続）…活性化推進組合
- ③ 契約講、念仏講、観音講（継続）…区
- ④ 鹿島神社へのしめ縄の奉納（継続）…若名会
- ⑤ ホタル観賞会（継続）…活性化推進組合
- ⑥ 農村レストラン“縄文の幸”運営（継続）…活性化推進組合
- ⑦ 貝塚周辺の公園化（新規）…活性化推進組合
- ⑧ 里山ハイキングコースの整備（新規）…活性化推進組合
- ⑨ 淡水魚調査と賞味会（継続）…活性化推進組合（サカモトと共催）
- ⑩ 上川名地区ホームページの開設と運営（新規）…活性化推進組合
- ⑪ 北上市黒岩地区・山元町磯地区との交流（継続）…区・活性化推進組合

III 農村景観の保全と持続できる地域農業づくり

平成19年度から農地・水・環境保全向上事業に取り組んできましたが、継続して24年度から新たに進められる農地・水保全管理支払交付金事業に取り組み、農村景観の保全を図り美しいムラづくりを進めます。水田や畑を有効活用し持続して農業ができるように、集落営農組織の立ち上げを目指します。

- ① 用排水路の江払い、江刈り（継続）…保全隊
- ② ため池・地区内道路の草刈り（継続）…保全隊
- ③ 小用排水路の浚渫（継続）…保全隊
- ④ 休耕田への景観作物作付（新規）…保全隊

- ⑤ 花いっぱい運動(継続) …保全隊
- ⑥ 地区内のクリーン活動(空き缶やゴミ拾い)(継続) …保全隊
- ⑦ 集落営農組織の立ち上げの調査研究(継続) …生産組合連合会・保全隊(行政等と連携)
- ⑧ 産地直売所の立ち上げと運営(新規) …活性化推進組合(富沢地区と共同)
- ⑨ 野菜や山菜等の産地直売所への納入(継続) …若葉会
- ⑩ もち加工品、漬物等の販売(継続) …活性化推進組合
- ⑪ 保全隊だよりの発行(継続) …保全隊
- ⑫ 富上農村公園の維持管理(継続) …区(行政・富沢地区との連携)

IV 子どもからお年寄りまで生きがいのある地域づくり

子どもからお年寄りまで健康で生きがいをもち、郷土への誇りと愛着を育む地域づくりを進めます。

- ① 富上生涯館事業への積極的な参画(継続) …区(富沢地区との連携)
 - ・敬老会、区民体育祭、ヘルシー大会の参加
- ② 地区内の生物調査(継続) …保全隊・子供育成会
- ③ お年寄りの“憩いの日”の開設(新規) …区・活性化推進組合
- ④ 子どもたち・若者とお年寄りの交流の日開設(新規) …区・活性化推進組合
- ⑤ 里山ハイキングの開催(新規) …活性化推進組合(富上生涯館と連携)
- ⑥ デマンドタクシーの活用促進(新規) …区・民生委員(行政と連携)
- ⑦ 概ね70歳以上のサークル(仮称)「現希クラブ」の立ち上げ…区
- ⑧ 天神祭(継続) …子供育成会
- ⑨ かわら版“上川名だより”の発行(新規) …区